

○計画期間: 令和5年4月～令和10年3月(5年0月)

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 令和7年度終了時点(令和8年3月31日時点)の中心市街地の概況

令和5年4月以降「誰もが豊かに暮らせるまち」、「交流による活気のあるまち」といった基本方針のもとに各事業を実施している。

平成19年から進めてきた史跡鳥取城跡大手登城路復元整備事業では、鳥取城中ノ御門渡櫓門の復元整備工事が完了。これにより、中心市街地のシンボリック価値が向上し、交流人口の拡大、歩行者・自転車通行量の増加に寄与することが期待される。

また、鳥取市役所旧本庁舎・第二庁舎の跡地では、緑地広場やイベント広場等を備えたまちなか交流広場（愛称：TORIKOI PARK（とりこいぱーく））が完成。先行して旧第二庁舎跡地に出店したコンビニエンスストアとの相乗効果による人流増加が期待できる。

本市は、「因幡・但馬麒麟のまち圏域」を鳥取県東部1市4町と兵庫県北部2町で形成しており、その中心市である本市の中心市街地にある鳥取駅は、圏域のエントランスである。駅周辺のバスターミナルをはじめとする施設は老朽化が進み、周辺道路の交通混雑の解消等も課題となっているが、令和6年6月、本計画に則した「鳥取駅周辺再生基本構想（第2期）」に基づく、「鳥取駅周辺再生基本計画」を策定した。これにより、駅を舞台にヒト・モノ・コトが集積、交流の輪が人材を育成し続けるまちづくりの好循環を生み出し、市民がワクワクする駅周辺に再生するための基本的な方向性を示した。また令和7年度には、交通事業者や商工団体等で構成する会議体や市民との意見交換会等で検討を重ねる中で取りまとめた「鳥取駅周辺再生整備計画」の素案の一部を公開した。今後は整備計画（素案）を公開するとともに、パブリックコメントの実施を経て、令和8年中の整備計画策定を目指して取組を進めていく。

民間の動きとして、令和7年10月に鳥取駅周辺に新たなホテルが1件オープンした。インバウンドも含めた交流人口の拡大やまち歩き促進にますます期待がかかる。また令和7年度末には、中心市街地内に新築の分譲マンションが1件完成。若年層における居住人口の増加が期待できる。

また、官民連携に関する新たな動きとして、地元金融機関が母体となり、地域課題の解決や地域の新たな価値創出に取り組む地域活性化事業会社が設立された。同社は中心市街地の活性化や鳥取駅周辺の再生に強い意欲を示しており、本市への申請に基づき、同社を本市初・県内初の都市再生推進法人に指定した。本件により官民連携の体制をより一層強化し、中心市街地の再生に取り組んでいく。

本市中心市街地は、人口の減少や事業所数の減少に加え、地価の下落にも歯止めがかかっていない状況にあるが、中心市街地で活動する市民や団体の想いを行政の施策に反映させ、官民連携により中心市街地を再生していく必要がある。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

(1) 居住人口

(基準日：毎年度1月1日)(単位：人)

(中心市街地 区域)	令和4年度 (計画前年度)	令和5年度 (1年目)	令和6年度 (2年目)	令和7年度 (3年目)	令和8年度 (4年目)	令和9年度 (5年目)
人口	12,211	11,979	11,852	11,703		
人口増減数	-98	-232	-127	-149		
自然増減数	-90	-117	-124	-127		
社会増減数	-7	-101	-15	-19		
転入者数	765	702	731	771		

(2) 事業所数

(基準日：毎年度3月31日)(単位：事業所)

(中心市街地 区域)	令和4年度 (計画前年度)	令和5年度 (1年目)	令和6年度 (2年目)	令和7年度 (3年目)	令和8年度 (4年目)	令和9年度 (5年目)
中心市街地 (合 計)	418	416	414	402		
智頭街道商店 街	36	34	35	32		
瓦町商店街	32	32	31	30		
鳥取太平線通 り商店街	29	30	29	28		
新鳥取駅前地 区商店街	121	124	130	123		
鳥取本通商店 街	59	58	55	54		
末広温泉町商 店街	64	64	65	64		
若桜街道商店 街	77	74	69	71		

(3) 地価

(基準日：毎年1月1日)(単位：円/㎡)

(中心市街地 区域)	令和4年度 (計画前年度)	令和5年度 (1年目)	令和6年度 (2年目)	令和7年度 (3年目)	令和8年度 (4年目)	令和9年度 (5年目)
中心市街地 商業地域平均	82,533	79,900	77,583	76,000		
弥生町 266 番	79,800	76,000	72,800	70,500		
瓦町 605 番	57,300	56,700	56,100	55,900		

栄町 710 番	126,000	121,000	117,000	114,000		
末広温泉町 129 番	84,500	80,300	76,500	74,000		
西町 1 丁目 202 番 2 外	81,300	80,000	78,500	77,600		
今町 2 丁目 285 番	66,300	65,400	64,600	64,000		
中心市街地 住宅地平均	88,750	88,750	88,750	88,750		
東町 2 丁目 341 番 1	93,500	93,500	93,500	93,500		
西町 3 丁目 411 番	84,000	84,000	84,000	84,000		

2. 令和7年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

鳥取市中心市街地活性化協議会では、基本計画の推進について鳥取市と方向性を共有すると共に、当協議会の専門人材として地域の民間まちづくり会社との連携により、中心市街地活性化の目標達成に向けた重点施策における課題解決を図っている。この体制により、リノベーションまちづくりや鳥取市が注力している鳥取駅周辺の再整備においても官民が一体になって推進している。

鳥取市中心市街地の概況としては、指標という点では目標に達していないものの、商店街に若手組織が発足して賑わいづくりに取り組んだり、小さくともまちの個性となり得る商店が集積しつつあるなどの動きも見られる。また、地元金融機関が母体となって、地域の発展・活性化を目的とした地域活性化事業会社が設立され、都市再生推進法人の指定を受け、民間がまちづくりに参画する環境も整えられてきた。

地方都市における人口や経済を持続していくことの困難さに直面する中ではあるが、鳥取市ならではの顔の見える連携体制を築きながら、暮らしの豊かさそのものがまちの魅力になるようなまちづくりの取り組みを行っていく。

Ⅱ. 目標ごとのフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況※1	目標達成に関する見通し※2	
						前回の見通し	今回の見通し
若年層のまちなか暮らしの促進	中心市街地の45歳未満居住人口(社会増減数)	69人/年(平成29年度～令和3年度の平均)	75人/年(令和5年度～令和9年度の平均)	-12人/年(令和5年度～令和7年度の平均)	C	C	C
回遊・滞在による経済活力の向上	7商店街の事業所数	430事業所(令和元年度)	425事業所(令和9年度)	402事業所(令和7年度)	C	C	C
	歩行者・自転車通行量(平日・休日の平均値)	19,909人/日(令和元年度)	21,300人/日(令和9年度)	19,315人/日(令和7年度)	C	A	A
	(補足指標)中心市街地での平均滞留時間	159分(令和4年度)	175分(令和9年度)	令和9年度フォローアップ予定			
地域資源等を活かした交流人口の拡大	文化観光・交流施設年間利用者数(4施設)	202,131人(令和元年度)	237,785人(令和9年度)	187,112人(令和7年度)	C	A	B

< 基準値からの改善状況(※1) >

最新値が基準値や目標値と比較してどうであるかで判断

A: 目標達成、B: 基準値より改善、C: 基準値に及ばない

< 目標達成に関する見通しの分類(※2) >

計画終了時の数値が、基準値や目標値と比較してどのような見通しかで判断

A: 目標達成が見込まれる

B: 目標達成が見込まれないが基準値を上回ることが見込まれる

C: 目標達成及び基準値を上回ることが見込まれない

※「< 基準値からの改善状況(※1) >」、< 目標達成に関する見通しの分類(※2) >ともに、関連する事業等の進捗状況が順調でない場合は、英字を小文字にして下線を引いて下さい。(例: a、b、c)

2. 目標達成見通しの理由

「中心市街地の 45 歳未満居住人口（社会増減数）」については、主要事業は進捗しているものの、目標値達成に寄与できていない。令和 7 年度は、中心市街地内に新築の分譲マンションが完成した効果もあり、単年度では 45 歳未満の人口は 53 人の社会増となったが、目標指標における最新値は目標値と大幅な乖離があり、現時点では目標達成は困難と考える。これに対しては、「令和 7 年度まちづくりワーケーションプログラム」で提案されたまちなか居住に関する事業の実現に向けた支援や、令和 6 年度に新たに移転したまちなか居住体験施設の PR を行うことにより、若年層の中心市街地への居住定着を図っていく。

「7 商店街の事業所数」については、新規開業が 10 事業所あったものの廃業が 22 事業所あり、402 事業所となった。主要事業による新規事業者の開業が 2 事業所あったものの、7 商店街での開業実績はなかった。現時点では目標達成は困難であるが、令和 8 年度より地域未来交付金（地域未来推進型）を活用して実施する「リノベーションまちづくり×まちなか共創促進事業」において、新たなリノベーションまちづくり構想を策定し関係者の機運を高めるとともに、民間まちづくり会社が行う遊休不動産の建築状況調査に対する支援を通じ、活用可能な物件の確保を図ることにより、事業所数の増加を図る。

「歩行者・自転車通行量（平日・休日の平均値）」については、コロナ禍からの人流の回復に時間を要しており、令和 7 年度末時点では基準値を下回っているものの、主要事業が順調に進捗していることから、最新値は昨年よりも 1 割程度増加しており、計画期間において目標を達成できると見込んでいる。令和 7 年度には、市役所旧本庁舎跡地に緑地広場やイベント広場等を備えたまちなか交流広場が完成し、先行して旧第二庁舎跡地に出店したコンビニエンスストアとの相乗効果による人流増加が期待できる。また令和 8 年度には、JR 鳥取駅前に立地する民間所有物件を改修し、レンタルオフィス、会議室、コワーキングスペースなどの機能を備えたビジネス拠点を開設予定であり、入居企業の従業員やイベント利用者等による人流増加が期待できる。加えて上記施設と既存のソフト事業とを連携させることにより、さらなる効果促進を図っていく。

文化観光・交流施設年間利用者数（4 施設）について、主要事業が概ね順調に進捗しており、施設の利用者数も堅調に推移しているものの、最新値は目標値と大幅な乖離があり、現時点では目標達成が難しい状況。これに対しては、令和 8 年度より地域未来交付金（地域未来推進型）を活用して実施する「自然・歴史・文化をいかした鳥取城跡周辺エリアにぎわい形成プロジェクト」において、鳥取城跡周辺ににぎわい拠点となる複合型ビジターセンターを整備し、市民や観光客の交流・滞在を促進することにより、関連する文化観光施設の利用者数増加を図る。

3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

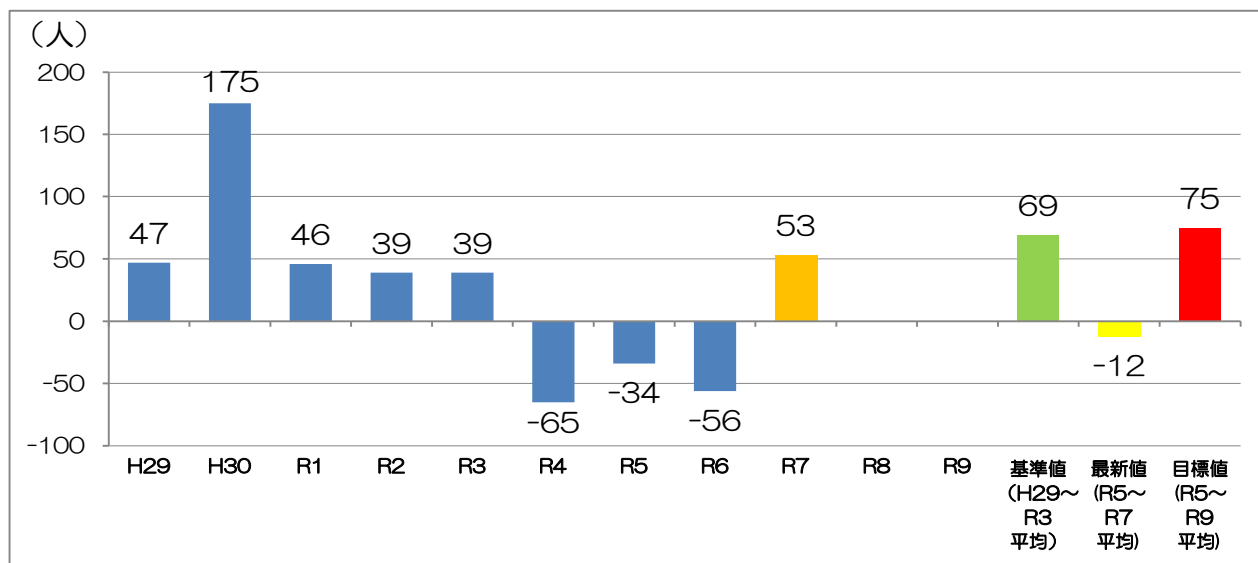
「文化観光・交流施設年間利用者数（4 施設）」

令和 6 年度フォローアップにおいては、鳥取城跡大手登城路復元整備事業における「中ノ御門渡櫓門」の完成などの効果もあり、令和 6 年度の最新値は前年度比約 17%増加した。同様の状況が続けば最終年度の目標達成は可能と考え、「目標達成が見込まれる（A）」としたが、令和 7 年度の最新値では施設利用数が伸び悩み、前年度比約 2%増にとどまったため、「目標達成が見込まれない（B）」と評価した。

4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

(1)「中心市街地の45歳未満居住人口(社会増減数)」※目標設定の考え方認定基本計画 P. 82 参照

●調査結果と分析



年	(人/年)
H29 ~ R3 の平均	69 (基準年値)
R 5	-34
R 6	-56
R 7	53
R 8	
R5~R9 の 平均	75 (目標値)

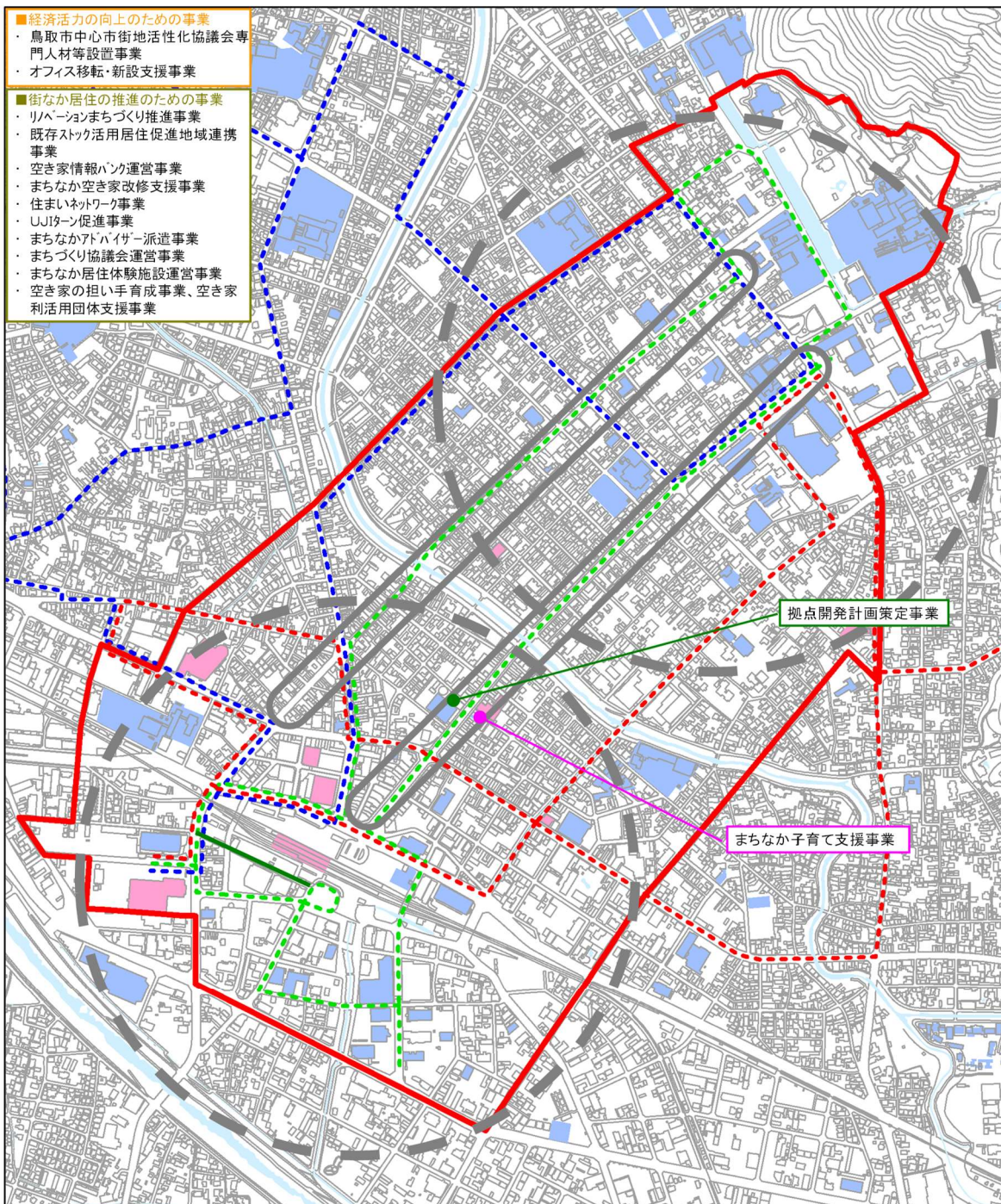
※調査方法：鳥取市「住民基本台帳」より集計

※調 査 月：毎年4月～3月

※調査主体：鳥取市

※調査対象：45歳未満中心市街地居住者の転入・転出

- 経済活力の向上のための事業
- ・鳥取市中心市街地活性化協議会専門人材等設置事業
 - ・オフィス移転・新設支援事業
- 街なか居住の推進のための事業
- ・リノベーションまちづくり推進事業
 - ・既存ストック活用居住促進地域連携事業
 - ・空き家情報バンク運営事業
 - ・まちなか空き家改修支援事業
 - ・住まいネットワーク事業
 - ・Uターン促進事業
 - ・まちなかトバイザー派遣事業
 - ・まちづくり協議会運営事業
 - ・まちなか居住体験施設運営事業
 - ・空き家の担い手育成事業、空き家利活用団体支援事業



■ 凡 例

- | | | | | | | |
|--|--|-----------------|--|---------------------------------|--|------|
| | | : 市街地の整備改善 | | : 100 円循環バス「くる梨」赤コース | | : 二核 |
| | | : 都市福祉施設の整備 | | : 100 円循環バス「くる梨」青コース | | : 二軸 |
| | | : 街なか居住の推進 | | : 100 円循環バス「くる梨」緑コース | | |
| | | : 経済活力の向上 | | : 中心市街地活性化基本計画区域 | | |
| | | : 公共交通機関の利便性の増進 | | : 主要公共公益施設(公共機関、教育文化、医療福祉、金融機関) | | |
| | | | | : 主要商業施設 | | |

〈分析内容〉

中心市街地の45歳未満居住人口（社会増減数）の増加に向けた事業は概ね順調に進捗しているが、現在のところ目標値の増加に寄与できていない。令和7年度は、中心市街地内に新築の分譲マンションが完成した効果もあり、単年度では+53人となったが、目標指標における最新値（令和5年度～令和7年度の平均）は-12人/年となり、目標値（令和5年度～令和9年度の平均）である+75人/年の達成は難しい状況となっている。

令和7年度の社会増数について年代別に分析すると、社会増が顕著なのは40～45歳：+6人、30～34歳：+25人、20～24歳：11人、15～19歳：+19人となっている。また、市内中心市街地外からの流入が令和6年度と比較し約1.5倍増加している。これらのことから、令和7年度は新築マンションの分譲開始により、若年層世帯が市内中心市街地外から中心市街地に流入し、45歳未満の居住人口が増加したと考える。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. リノベーションまちづくり推進事業（鳥取市、（株）まるにわ、鳥取市中心市街地活性化協議会等）

事業実施期間	平成26年度～【実施中】
事業概要	民間事業者や民間まちづくり会社の育成・支援、遊休不動産所有者への啓発・支援などを通じて、民間自立型でのリノベーション手法による遊休不動産の利活用を進める。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和7年度～令和9年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：+2人/年 最新値：0人/年 令和7年度は遊休不動産のリノベーションによる事業化の案件が2件あったものの、シェアハウスとして利活用する案件がなかった。 一方で、地元人材と都市部人材が協力し中心市街地の遊休不動産の活用策の立案を行う「まちづくりワーケーションプログラム」において、令和7年度のテーマを「まちなか居住」に設定し事業案の検討を進めたところ、参加者から「二地域居住拠点としての企業寮」や「街まるごと学生寮」といった提案が示された。目標達成に寄与する提案であり、実事業化に向けて関係者で検討を進めていく。
事業の今後について	事業目標値の達成には、5年間で2件のシェアハウスとしての利活用が必要と見込んでいるため、目標値の達成に向けて民間まちづくり会社や中心市街地活性化協議会と、候補物件やプレイヤーの発掘・支援に取り組んでいく。

②. まちなか居住体験施設運営事業（鳥取市）

事業実施期間	平成23年度～【実施中】
事業概要	居住体験施設を運営することにより、利便性の高い中心市街地での

	日常生活を体験してもらう。また、施設の紹介や中心市街地の情報を動画などで配信し、移住・居住希望者へ向けて情報発信を行う。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：+4 人/年 最新値：0 人/年 居住体験施設について、令和6年度より、「まちなかの魅力」をより伝えることができる閑静な住宅街への移転を実施した。令和7年度の実績として、3世帯8人の利用があり、利用者のうち1世帯3人が実際に本市に移住したが、残念ながら中心市街地外に住居を構えることになった。 参考情報ではあるが、本市の移住定住相談窓口が直接関与した案件では、8世帯13人（うち45歳未満の者12人）が中心市街地に移住している。 また令和7年度の取組として、施設の利用率向上策として、関西圏を配布エリアとする新聞に広告を出稿するとともに、施設の紹介動画を制作しウェブでの動画配信を開始した。
事業の今後について	引き続き、各種メディアによる情報発信に注力し、まちなかへの移住希望者に対するPRを行っていく。

③. 鳥取市中心市街地活性化協議会専門人材等設置事業（（一財）鳥取開発公社、鳥取市中心市街地活性化協議会）

事業実施期間	平成27年度～【実施中】
事業概要	専門的な知見やノウハウを持った専門人材を設置する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和7年度～令和9年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：0 人/年 最新値：0 人/年 ※事業効果は①②の事業に含む。 （一財）鳥取開発公社が法定構成員となっている鳥取市中心市街地活性化協議会では、中心市街地活性化に係るプロジェクトの推進を図るため、プロジェクトマネージャー業務を株式会社まるにわに委託している。当該事業者は令和2年度に中心市街地内で空きビルとなっていた物件をリノベーション手法により整備したマーチングビルを拠点としており、当該拠点でコワーキングスペースとシェアハウス事業を営んでいる実績がある。 プロジェクトマネージャー業務では、遊休不動産のオーナーと事業オーナーのマッチングを行っているが、令和7年度はシェアハウスを始めとする「居住」に関する案件がなかった。 目標値の達成に向けては、①.リノベーションまちづくり推進事業の令和7年度「まちづくりワーケーションプログラム」で提案のあ

	った「まちなか居住」に関する事業案について、株式会社まるにわを中心に実事業化の検討に着手したところである。
事業の今後について	引き続き、プロジェクトマネージャーの設置により、目標値の達成に向けて、まちなか居住に資する取組の推進を図っていく。

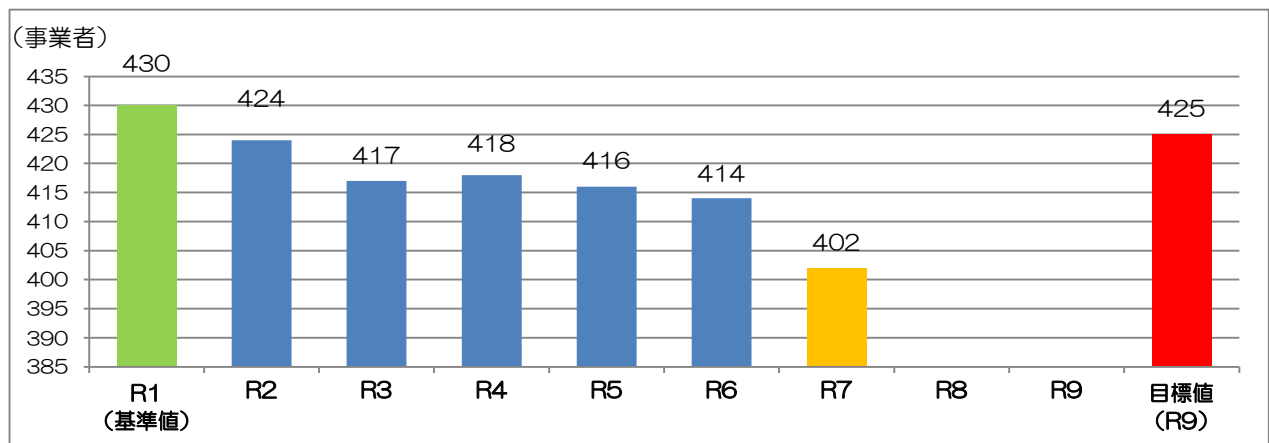
●目標達成の見通し及び今後の対策

中心市街地の45歳未満居住人口（社会増減数）については、主要事業は概ね順調に進捗しているものの目標値の増加に寄与できておらず、目標達成が難しい状況のため、今後の対策として以下の取組を実施予定。

- ・リノベーションまちづくり推進事業：主要事業の進捗状況に記載したとおり、令和7年度のまちづくりワーケーションプログラムにおいて、遊休不動産の活用策として「二地域居住拠点としての企業寮」や「街まるごと学生寮」といった、中心市街地への若年層の居住人口増に寄与する提案が示された。実事業化に向けて関係者で検討を進めていくとともに、行政として伴走しながら制度や資金面における支援も検討していきたい。

(2)「7商店街の事業所数」※目標設定の考え方は認定基本計画 P. 85 参照

●調査結果と分析



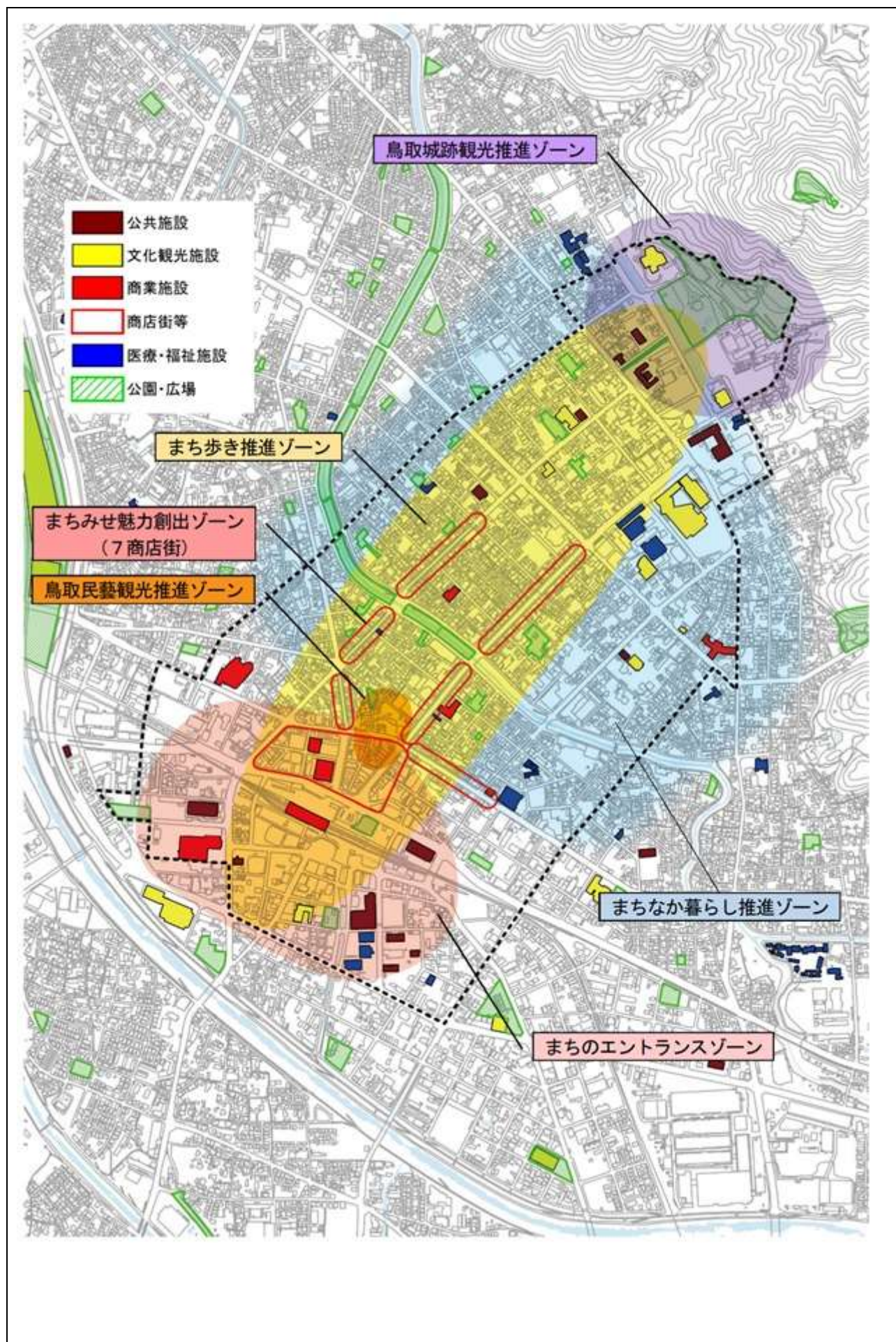
年	(事業所)
R 1	430 (基準年値)
R 5	416
R 6	414
R 7	402
R 8	
R 9	425 (目標値)

※調査方法：鳥取市中心市街地活性化協議会による調査データを集計

※調 査 月：毎年 3 月

※調査主体：鳥取市中心市街地活性化協議会

※調査対象：中心市街地内 7 商店街の事業所



(単位：事業所)						
	令和4年度 (計画前年度)	令和5年度 (1年目)	令和6年度 (2年目)	令和7年度 (3年目)	令和8年度 (4年目)	令和9年度 (5年目)
智頭街道商店街振興組合	36	34	35	32		
瓦町商店街振興組合	32	32	31	30		
鳥取太平線通り商店街振興組合	29	30	29	28		
新鳥取駅前地区商店街振興組合	121	124	130	123		
鳥取本通商店街振興組合	59	58	55	54		
末広温泉町商店街振興組合	64	64	65	64		
若桜街道商店街振興組合	77	74	69	71		
合計	418	416	414	402		

〈分析内容〉

7商店街の事業所数の増加に向けた事業については、後述のとおり概ね進捗はしているものの、7商店街の事業所数増加には、直接的に寄与するに至らなかった。

各商店街組合の状況をそれぞれ見ると、智頭街道商店街振興組合は-3事業所（増0、減3）。瓦町商店街振興組合は-1事業所（増0、減1）。鳥取太平線通り商店街振興組合は-1事業所（増0、減1）。新鳥取駅前地区商店街振興組合は-7事業所（増2、減9）。鳥取本通商店街振興組合は-1事業所（増3、減4）。末広温泉町商店街振興組合は-1事業所（増1、減2）。若桜街道商店街振興組合は+2事業所（増3、減1）となっている。全体で新規の開業が9事業所あるものの、廃業に至った事業所が21事業所あり、12事業所の減となった。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. リノベーションまちづくり推進事業（鳥取市、（株）まるにわ、鳥取市中心市街地活性化協議会等）

事業実施期間	平成 26 年度～【実施中】
事業概要	民間事業者や民間まちづくり会社の育成・支援、遊休不動産所有者への啓発・支援などを通じて、民間自立型でのリノベーション手法による遊休不動産の利活用を進める。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 7 年度～令和 9 年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：+10 事業所 最新値：1 事業所 令和 7 年度は本事業により 2 事業者が開業に至ったが、まちみせ魅力創出ゾーンでの事業化はなく、計画期間中の増加件数は 1 件となった。
事業の今後について	引き続き、民間まちづくり会社や中心市街地活性化協議会との連携により、まちみせ魅力創出ゾーンでの新規事業者による事業者増を目指し、本事業を推進していく。

②. 鳥取駅周辺再整備検討・計画策定事業（鳥取市）

事業実施期間	令和 5 年度～【実施中】
事業概要	鳥取駅周辺における、まちなかへ賑わいを滲み出す空間整備や複合施設の整備等を行うための再整備計画を策定するとともに、必要な調査の実施、合意形成に係る会議やシンポジウム等の開催を行う。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 7 年度～令和 9 年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	本事業では、令和 6 年度に策定した「鳥取駅周辺再生基本計画」を基に整備計画の検討を進めている。令和 7 年度は交通事業者や商工団体、行政機関等で構成する「鳥取駅周辺リ・デザイン会議」を開催し、これまで駅まち空間デザイン検討部会や市民との意見交換会等で検討を重ねる中で取りまとめた「鳥取駅周辺再生整備計画」の素案の一部を公開した。なお、整備方針や平面レイアウト案、複合施設の整備方針等を示している。
事業の今後について	令和 8 年度においては、整備計画（素案）を公開するとともに、パブリックコメントの実施を経て、令和 8 年中の整備計画策定を目指して取組を進めていく。

●目標達成の見通し及び今後の対策

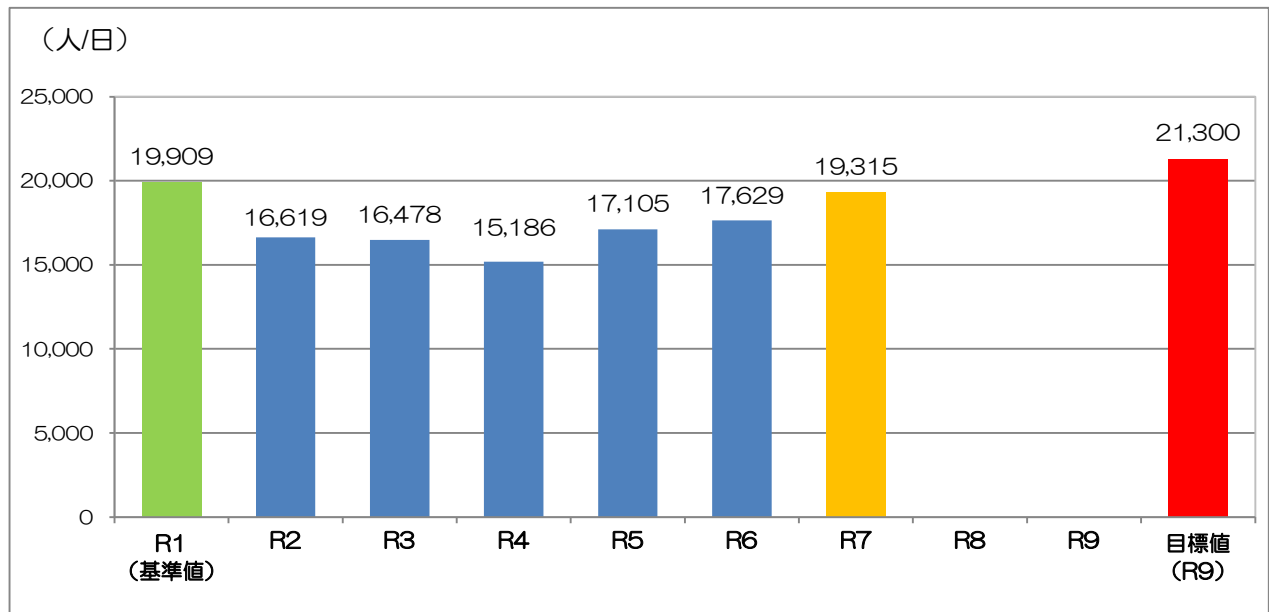
7 商店街の事業所数については、依然として減少傾向にあり、目標達成が難しい状況のため、以下の事業を令和 8 年度より新たに実施予定。

- ・リノベーションまちづくり×まちなか共創促進事業：地域住民や商店街とも連携した取組を展

開していくための指針となる新たなリノベーションまちづくり構想を策定し、遊休不動産利活用に向け地域住民や物件所有者等の機運を醸成するとともに、民間まちづくり会社が行う遊休不動産の建築状況調査に対する支援を行い、活用にあたっての課題を整理・データベース化することにより、実際に活用可能な物件の確保を図る。

(3)「歩行者数・自転車通行量(平日・休日の平均値)」※目標設定の考え方は認定基本計画 P. 87 参照

●調査結果と分析



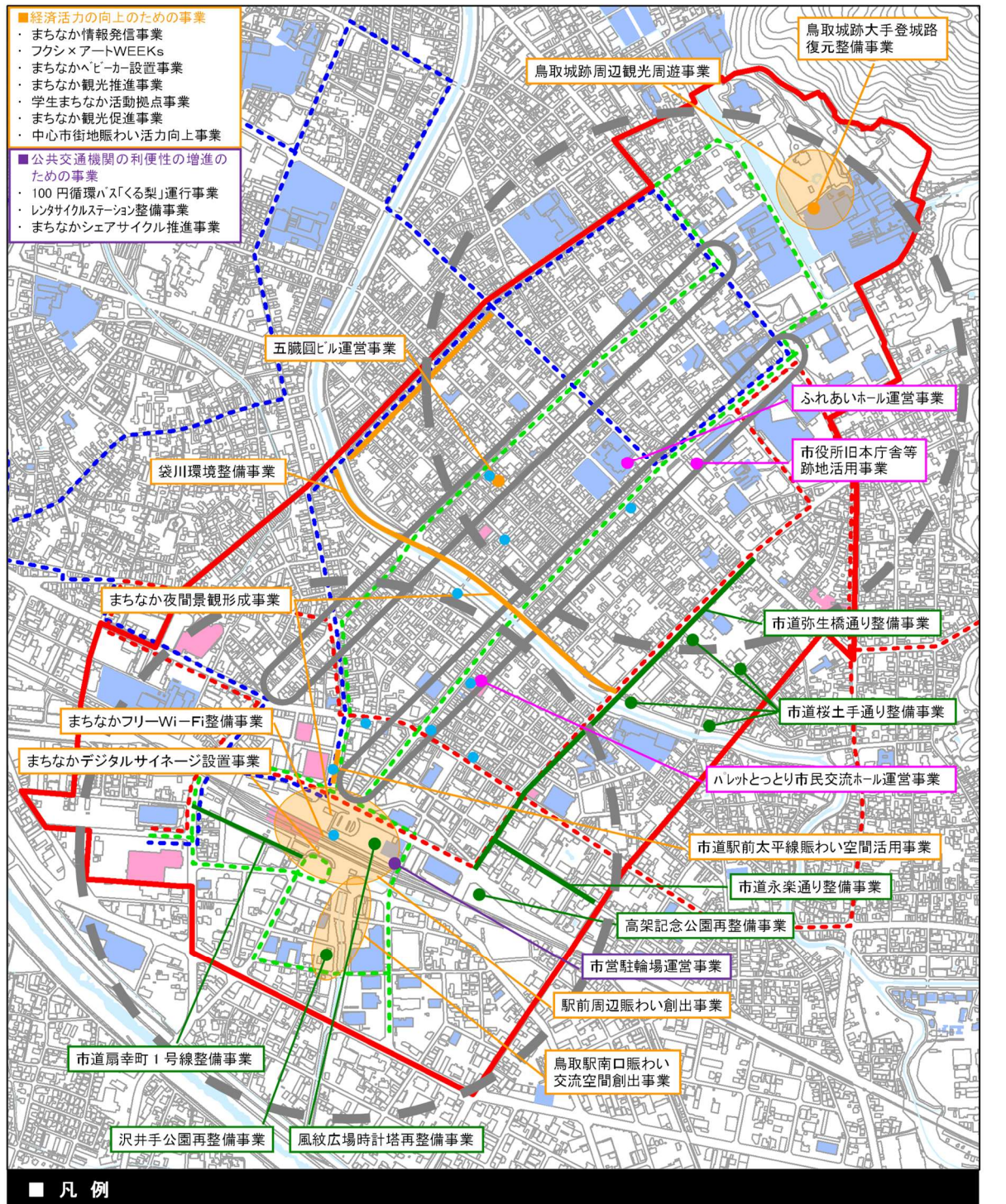
年	(人/日)
R 1	19,909 (基準年値)
R 5	17,105
R 6	17,629
R 7	19,315
R 8	
R 9	21,300 (目標値)

※調査方法：鳥取市「通行量調査結果報告書」より集計

※調 査 月：毎年 10 月頃

※調査主体：鳥取市

※調査対象：中心市街地内 10 時点における歩行者及び自転車



(単位：人/日)

	令和4年度 (計画前年度)	令和5年度 (1年目)	令和6年度 (2年目)	令和7年度 (3年目)	令和8年度 (4年目)	令和9年度 (5年目)
こむわかさ	954	1,202	1,177	1,107		
パレットとっとり	1,415	1,804	1,985	1,740		
まちパル鳥取	1,402	1,912	1,879	1,693		
末広通り	860	857	1,074	988		
花見橋通り	713	850	826	858		
鳥取駅北口	6,560	6,686	7,349	9,145		
五臓圓ビル	489	576	557	548		
川端銀座通り	793	1,054	827	917		
鳥取民藝美術館	879	865	774	920		
鳥取大丸前	1,121	1,299	1,181	1,399		
合計	15,186	17,105	17,629	19,315		

〈分析内容〉

歩行者数・自転車通行量（平日・休日の平均値）の増加に向けた各事業については、概ね予定通りに進捗している。各計測地点の通行量を前年度と比較すると、鳥取駅付近の計測地点を中心に増加傾向、その他の地点では微増もしくは微減となっており、合計値としては1割程度の増となっている。その中でも増加が顕著だったのは鳥取駅北口であり、逆に比較的減少幅が大きかったのはパレットとっとりだった。

コロナ禍からの人流の回復に加え、後述する各事業の実施による効果の表れと考える。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 市役所旧本庁舎等跡地活用事業（鳥取市）

事業実施期間	令和5年度～【実施中】
事業概要	鳥取市役所本庁舎は令和元年度に鳥取駅南側へ移転した。旧本庁舎、第二庁舎跡地の活用について具体的に検討し、整備する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：+950 人/日 最新値：-510 人/日 本事業は、令和4年度に取りまとめた旧本庁舎跡地活用基本計画等に沿ってこれまで取組を進めてきたが、令和7年度に緑地広場やイベント広場、駐車場等を備えたまちなか交流広場（愛称：TORIKOI PARK（とりこいぱーく））が完成した。敷地面積は約 8,000 m²で、東屋や水飲み場を設け、Wi-Fi 環境も整備した。また、災害時の備えとして複数のソーラー照明を配置したほか、炊き出しでかまどとして利用できるベンチや、マンホールトイレも設置。広場のオープ

	ンを記念して開催したオープニングイベントには、地元住民や経済団体のほか、近隣の小中学校の児童・生徒ら約 500 人が参加し、緑地広場に芝の苗を植える催しなどで賑わった。 最新値は基準値（令和元年度値）に対し、令和 7 年度：-510 人/日となっている。これまでは、令和 4 年度：-663 人/日、令和 5 年度：-415 人/日、令和 6 年度：-440 人/日と減少傾向が続いており、本事業等による通行量の回復が急務となっている。 ＜計算方法＞ 計測地点：こむわかさ 基準値：R1 年度値 目標値：R9 年度値 事業目標値：目標値－基準値＝R9 年度値－R1 年度値 最新値：各年度実測値－基準値＝R7 年実測値－R1 年度値
事業の今後について	交流広場の供用開始により、先行して令和 6 年度に旧第二庁舎跡地に出店したコンビニエンスストアとの相乗効果による人流増加が期待できる。加えて、近隣に立地する鳥取市民会館で行われるイベント等との連携も検討し、賑わいを創出することで、目標値の達成を図る。
②. 鳥取城跡大手登城路復元整備事業（鳥取市）	
事業実施期間	平成 19 年度～令和 9 年度【実施中】
事業概要	平成 17 年度に策定した「史跡鳥取城跡附太閤ヶ平保存整備基本計画」に基づき、国指定史跡である鳥取城跡の石垣、櫓門等を復元整備する。
国の支援措置名及び支援期間	国宝重要文化財等保存整備費補助金（文化庁） （平成 19 年度～令和 9 年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：+15 人/日 最新値：-718 人/日 本市が進める史跡鳥取城跡の復元事業において、本事業としては初の室内空間を持った本格的な城郭建築の復元となる大手登城路の「中ノ御門渡櫓門」が令和 6 年度に完成した。令和 7 年度においては、「中ノ御門」全体の完成をお披露目する「開門式」を開催するとともに、開門記念イベントとして、マルシェや今回の復元工事に用いられた伝統技術の体験イベント、城内を馬に乗ってめぐるツアー等も併せて実施したところ、約 1,500 人が来場し多くの賑わいを見せた。 また令和 7 年度より、鳥取城の天守に位置付けられていた「二ノ丸三階櫓」の復元に向けた調査事業に着手した。 最新値は基準値（令和元年度値）に対し、令和 7 年度：-718 人/日となっている。これまでは、令和 4 年度：-655 人/日、令和 5

	年度：-664 人/日、令和 6 年度：-823 人/日と減少傾向が続いていた。令和 7 年度は令和 6 年度と比較し+105 人/日と増加に転じており、「中ノ御門渡櫓門」の完成が寄与したものと考えられる。 <計算方法> 計測地点：擬宝珠橋前（県立博物館入口） 基準値：R1 年度値 目標値：R1 年度値×101%（1 %増加） 事業目標値：R1 年度値×1 % 最新値：各年度実測値－基準値＝R7 年実測値－R1 年度値
事業の今後について	引き続き、大手登城路の復元整備を進めるとともに、整備の第二段階である「二ノ丸三階櫓」の復元に向けた調査事業にも令和 7 年度より着手。中心市街地における鳥取城跡のシンボリック価値を高め、賑わいの創出を図っていく。

③. 鳥取城跡周辺観光周遊事業（鳥取市、鳥取市観光コンベンション協会ほか）

事業実施期間	令和 5 年度～【実施中】
事業概要	案内ガイドの充実等の受け入れ体制整備や、周辺観光施設等を周遊する体験メニューの造成などを通じて、鳥取城跡を核とする周辺観光周遊事業に取り組む。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：0 人/年 最新値：0 人/年 ※事業効果は②の事業に含む。 鳥取城復元整備の進展など、観光地としての整備が進む史跡鳥取城跡周辺エリアにおいて、隣接する歴史的建造物「桜寛苑（国指定登録有形文化財）」土蔵を活用し、観光案内や休憩・物販などの各種サービスを提供する観光拠点実証事業を鳥取市観光コンベンション協会に委託し令和 6 年度より実施している。令和 7 年度は滞在性の向上に資する取組として、クラフト作家が順番に在廊し作品の説明や販売を行う「クラフト作家ギャラリー」を実施。年間で延べ 125 名の利用があり（12～2 月は冬季閉館）、②鳥取城跡大手登城路復元整備事業との相乗効果により城跡周辺の人流増加に寄与した。
事業の今後について	令和 8 年度以降も歴史的建造物である桜寛苑を活用した観光拠点運営の実証事業を継続して実施し、鳥取城跡を核とする周辺観光周遊事業に取り組んでいく。

④. リノベーションまちづくり推進事業（鳥取市、（株）まるにわ、鳥取市中心市街地活性化協議会等）

事業実施期間	平成 26 年度～【実施中】
事業概要	民間事業者や民間まちづくり会社の育成・支援、遊休不動産所有者

	への啓発・支援などを通じて、民間自立型でのリノベーション手法による遊休不動産の利活用を進める。
国の支援措置名 及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和7年度～令和9年度）
事業目標値・最新 値及び進捗状況	事業目標値：+300 人/日 最新値：-2,202 人/日 令和7年度は本事業による遊休不動産の利活用が2件（鳥取市川端二丁目、栄町）となり、目標指標の積算根拠である単年度の利活用件数の2件を達成した。 これら2件の立地場所付近の計測地点「川端銀座通り」「花見橋通り」の歩行者数・自転車通行量（平日・休日の平均値）は基準値（令和元年度値）に対し、令和7年度はそれぞれ-528 人/日、+349 人/日。令和6年度と比べて+90 人/日、+32 人/日と増加しており、事業の成果が着実に現れている。 また、本事業が寄与する地点全体で見ると、最新値が基準値（令和元年度値）に対し、令和7年度：-2,202 人/日となっている。これまでは、令和4年度：-3,407 人/日、令和5年度：-1,946 人/日、令和6年度：-2,258 人/日となっており、コロナ禍の影響から徐々に回復している傾向がある。令和7年度は、令和6年度に対し+56 人/日と微増した。 <計算方法> 計測地点：パレットとっとり・まちパル鳥取・花見橋通り・川端銀座通り・鳥取民藝美術館・丸由百貨店（旧鳥取大丸）前（6地点の合計値） 基準値：R1 年度値 目標値：R1 年度値+300 人/日 事業目標値：+300 人/日 最新値：各年度実測値－基準値＝R7 年実測値－R1 年度値
事業の今後について	引き続き、民間まちづくり会社や中心市街地活性化協議会と連携しながら事業を進めることで、リノベーション手法による遊休不動産の利活用を推進し、歩行者・自転車通行量の増加を図る。

⑤. 駅前周辺賑わい創出事業（新鳥取駅前地区商店街振興組合、西日本旅客鉄道（株）米子支社、JR 西日本山陰開発（株）、（株）丸由）

事業実施期間	平成25年度～【実施中】
事業概要	鳥取駅、周辺商業施設、商店街の通りが連携して朝市やイベント等を開催する。
国の支援措置名 及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新	事業目標値：+626 人/日

値及び進捗状況	最新値：+2,211 人/日 令和7年度は、休日に市道太平線で 22 件のイベントを実施（うち鳥取市は 10 件に対し支援を行った。）、延べ 32,200 人の来場があった。 また本事業と直接の繋がりはないが、令和7年度に JR 鳥取駅の商業ゾーンが大きくリニューアルし、飲食ゾーン「えきなかキッチン」や、お土産×コンビニの複合型ショップ「おみやげ楽市」がオープンする等、駅周辺の快適性・利便性が大きく向上した。 歩行者・自転車通行量（平日・休日の平均値）の最新値は、基準値（令和元年度値）に対し、令和7年度：+2,211 人/日と事業目標値を大きく上回る数値となった。これまでは、令和4年度：-1,353 人/日、令和5年度：-1,053 人/日、令和6年度：+192 人/日と回復傾向が続いていたなかで、令和7年度値は、令和6年度値に対し +2,019 人/日と大きく改善した。本事業で実施するイベント等での集客に加え、上述した JR 鳥取駅の商業ゾーンのリニューアルが大きく寄与しているものとする。 ＜計算方法＞ 計測地点：鳥取駅北口・鳥取駅南口（2 地点の合計値） 基準値：R1 年度値 目標値：R1 年度値×105% 事業目標値：R1 年度値×5% 最新値：各年度実測値－基準値＝R7 年実測値－R1 年度値
事業の今後について	引き続き、関係機関と連携してイベント等の実施を行うことで賑わいを創出し、歩行者・自転車通行量の増加を図っていく。

⑥. 鳥取駅南口賑わい交流空間創出事業（鳥取市）

事業実施期間	令和5年度～【実施中】
事業概要	鳥取駅南口の鉄道記念物公園をリノベーションするとともに、周辺の市道を一体的に活用する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：+40 人/日 最新値：+2,211 人/日 令和7年度は、令和6年度に引き続き、鳥取駅周辺再整備検討・計画策定事業において、複合施設や鉄道記念物公園などの駅周辺公共空間の一体的な整備について、市民参加によるワークショップや専門家を招いた駅まち空間デザイン部会等で検討することとしたため、本事業は一時休止とした。 以下、参考情報であるが、令和7年 10～12 月にかけて、市内在住の学生を対象とした意見交換会を実施し、延べ 38 名が参加した。

	また、令和7年12月には駅周辺の活性化をテーマに、基調講演やパネルディスカッションなどを主な内容とした市民フォーラムを開催し、延べ200名の来場があった。 本事業による成果ではないが、歩行者・自転車通行量（平日・休日の平均値）の最新値は、基準値（令和元年度値）に対し、令和7年度：+2,211人/日と事業目標値を大きく上回る数値となった。これまでは、令和4年度：-1,353人/日、令和5年度：-1,053人/日、令和6年度：+192人/日と回復傾向が続いていたなかで、令和7年度値は、令和6年度値に対し+2,019人/日と大きく改善した。
事業の今後について	今後は、鳥取駅周辺再整備検討・計画策定事業との進捗調整を図りつつ、引き続き、公園施設の在り方や周辺利用の方向性について、検討していく。

⑦. 鳥取駅周辺再整備検討・計画策定事業（鳥取市）

事業実施期間	令和5年度～【実施中】
事業概要	鳥取駅周辺における、まちなかへ賑わいを滲み出す空間整備や複合施設の整備等を行うための再整備計画を策定するとともに、必要な調査の実施、合意形成に係る会議やシンポジウム等の開催を行う。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和7年度～令和9年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	本事業では、令和6年度に策定した「鳥取駅周辺再生基本計画」を基に整備計画の検討を進めている。令和7年度は交通事業者や商工団体、行政機関等で構成する「鳥取駅周辺リ・デザイン会議」を開催し、これまで駅まち空間デザイン検討部会や市民との意見交換会等で検討を重ねる中で取りまとめた「鳥取駅周辺再生整備計画」の素案の一部を公開した。なお、整備方針や平面レイアウト案、複合施設の整備方針等を示している。
事業の今後について	令和8年度においては、整備計画（素案）を公開するとともに、パブリックコメントの実施を経て、令和8年中の整備計画策定を目指して取組を進めていく。

⑧. 100円循環バス「くる梨」運行事業（鳥取市）

事業実施期間	平成14年度～【実施中】
事業概要	中心市街地の回遊性・滞在性を高めることを目的に循環バスを運行する。中心市街地でも高齢化が進展する中、生活交通としての役割も高まっており、利便性の向上・持続可能な運行体制を構築する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和7年度～令和9年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	中心市街地活性化、公共交通機関の利用促進、市中心部における公共交通空白地域の解消を目的として、市街地をワンコイン（100

	円)で移動することが出来る循環バスを運行している。令和7年度の運行実績は、赤コース 87,233 人(対前年度-1,840 人)、青コース 116,418 人(同+4,820 人)、緑コース 136,767 人(同+9,030 人)であり、合計 340,418 人(同+12,010 人)となった。コロナ禍で利用者数が落ち込んだ令和2年度以降は現在まで増加傾向にあり、生活交通としての役割が高まっている。特に令和7年度に利用者数が増加した緑ルートは、鳥取駅北口や鳥取民藝美術館等、令和7年度に通行量が増加した地点を周遊しており、本事業が目標数値の伸長に寄与していることがわかる。
事業の今後について	近年の原油価格の高騰や運転手不足等、公共交通を取り巻く環境は厳しいが、利用率向上の取組を関係機関と共同で実施する等の施策を行いながら、中心市街地の回遊性・滞在性の向上を図るため引き続き事業を実施していく。

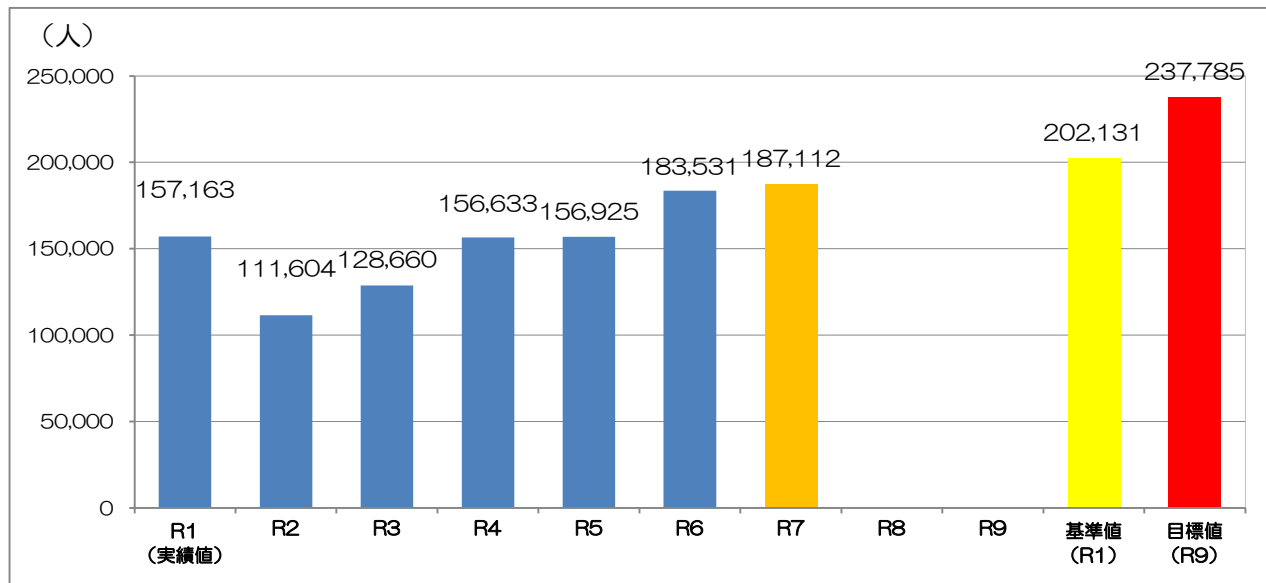
●目標達成の見通し及び今後の対策

コロナ禍の影響下からの人流の回復傾向に加え、主要事業として、市役所旧本庁舎跡地に緑地広場やイベント広場、駐車場等を備えたまちなか交流広場が完成し、先行して旧第二庁舎跡地に出店したコンビニエンスストアとの相乗効果による人流増加が期待できる。また、令和8年度には、鳥取市ビジネスコミュニティ拠点整備事業にて、鳥取駅前に立地する民間所有物件を改修し、レンタルオフィス、会議室、コワーキングスペースなどの機能を備えたビジネス拠点がオープン予定であり、入居企業の従業員やイベント利用者等による人流増加が期待できる。加えて他の主要事業も概ね順調に進捗していることから、最終年度の目標達成は可能と考える。

引き続き、鳥取城跡大手登城路復元整備事業などのハード整備を着実に進めるとともに、令和8年度にオープン予定であるビジネス拠点と連携したリノベーションまちづくり×まちなか共創促進事業等のソフト事業を実施することで、実績を伸ばしていきたい。

（４）「文化観光・交流施設年間利用者数（４施設）」※目標設定の考え方は認定基本計画 P. 91 参照

●調査結果と分析



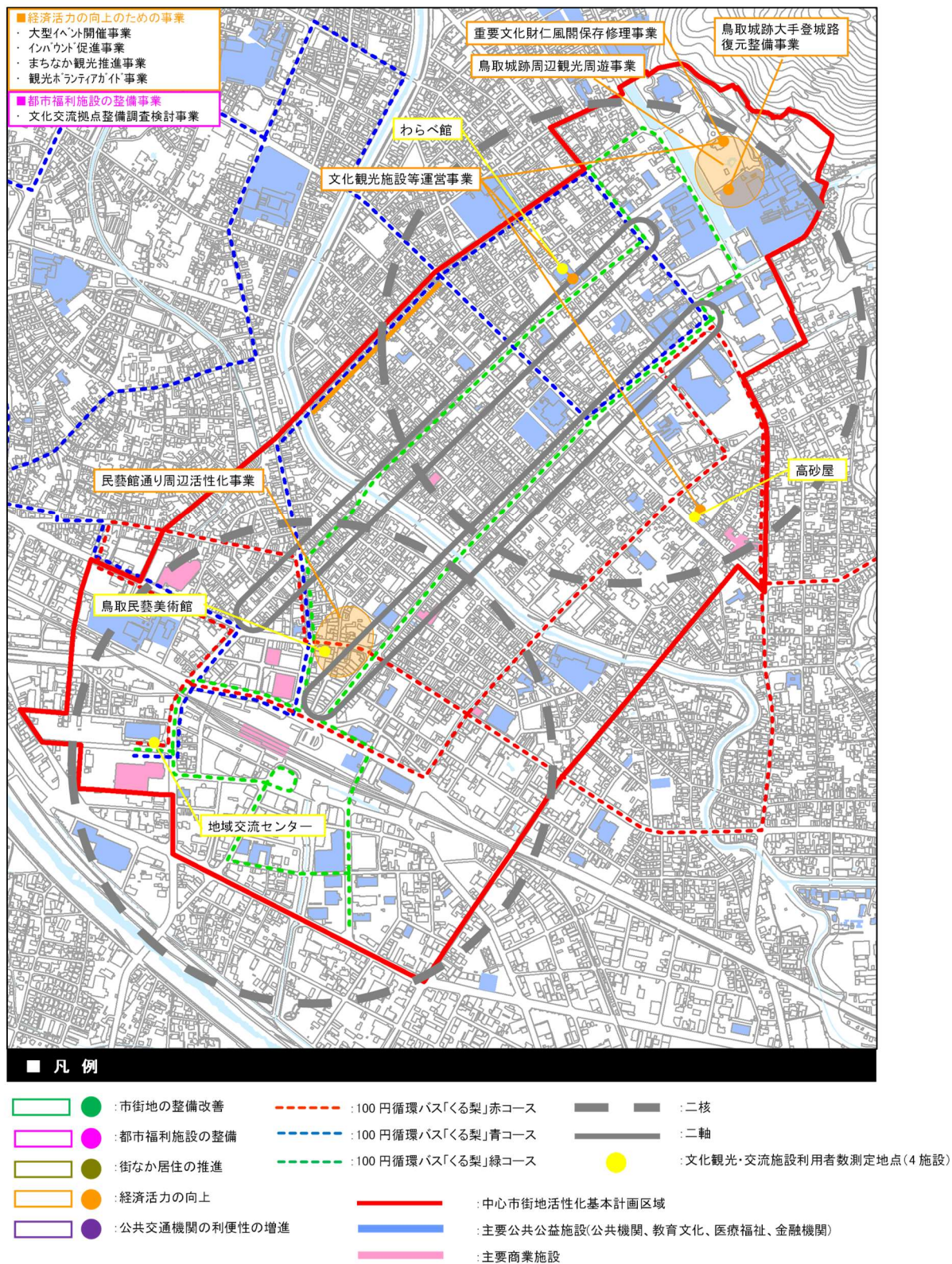
年	(人)
R 1	202, 131 (基準年値)
R 5	156, 925
R 6	183, 531
R 7	187, 112
R 8	
R 9	237, 785 (目標値)

※調査方法： 4施設運営者からの提供データに基づき集計

※調 査 月： 毎年4月～3月

※調査主体： 各施設運営者

※調査対象： 中心市街地内4施設における年間利用者



(単位：人)

	令和4年度 (計画前年度)	令和5年度 (1年目)	令和6年度 (2年目)	令和7年度 (3年目)	令和8年度 (4年目)	令和9年度 (5年目)
わらべ館	76,585	93,057	101,945	113,133		
高砂屋	6,300	8,773	8,690	10,153		
鳥取民藝美術館	5,863	5,751	6,006	6,225		
地域交流センター	67,885	49,344	66,890	57,601		
合計	156,633	156,925	183,531	187,112		

〈分析内容〉

文化観光・交流施設年間利用者数（4施設）の増加に向けた各事業については、概ね予定通りに進捗している。各施設の利用者数を前年度と比較すると、わらべ館は+11,188人と約1割増加しており、後述する①、鳥取城跡大手登城路復元整備事業及び②、文化観光施設等運営事業により堅調に利用者数を伸ばしているものと考えられる。

高砂屋は+1,463人と1割程度増加。後述する①、鳥取城跡大手登城路復元整備事業により令和6年度新たに完成した施設もあり、今後の更なる波及効果が期待できる。

鳥取民藝美術館は+219人と増加しており、後述する③、民藝館通り周辺活性化事業により、令和5年度末に新たに整備された施設の波及効果が継続しているものと考えられる。

地域交流センターは-9,289人と減少した。センターの利用件数自体が、令和6年度1,116件に対し令和7年度1,049件と減少していることが一因と考えられる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

① 鳥取城跡大手登城路復元整備事業（鳥取市）

事業実施期間	平成19年度～令和9年度【実施中】
事業概要	平成17年度に策定した「史跡鳥取城跡附太閤ヶ平保存整備基本計画」に基づき、国指定史跡である鳥取城跡の石垣、櫓門等を復元整備する。
国の支援措置名及び支援期間	国宝重要文化財等保存整備費補助金（文化庁） （平成19年度～令和9年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：+2,156人/年 最新値：-20,477人/年 本市が進める史跡鳥取城跡の復元事業において、本事業としては初の室内空間を持った本格的な城郭建築の復元となる大手登城路の「中ノ御門渡櫓門」が令和6年度に完成した。令和7年度においては、「中ノ御門」全体の完成をお披露目する「開門式」を開催するとともに、開門記念イベントとして、マルシェや今回の復元工事に用いられた伝統技術の体験イベント、城内を馬に乗ってめぐるツアー等も併せて実施したところ、約1,500人が来場し多くの賑わいを見せた。 また令和7年度より、鳥取城の天守に位置付けられていた「二ノ丸三階櫓」の復元に向けた調査事業に着手した。

	なお、参考情報として、鳥取城跡周辺の歩行者・自転車通行量については令和元年度以降減少傾向が続いていたが、令和7年度は令和6年度と比較し+105 人/日と増加に転じており、「中ノ御門渡櫓門」の完成が寄与したものと考えられる。 最新値は基準値（令和元年度値）に対し、令和7年度：-20,477 人となっている。これまでは基準値に対して、令和4年度：-60,878 人、令和5年度：-41,933 人、令和6年度：-33,128 人とコロナ禍の影響からの回復傾向が続いていたなかで、令和7年度値は、令和6年度値に対し+12,631 人と引き続き回復傾向となっており、本事業も寄与しているものと考ええる。 <計算方法> 対象施設：わらべ館・高砂屋（2 施設の利用者数の合計値） 基準値：R1 年度値 目標値：R1 年度値×101.5% 事業目標値：R1 年度値×1.5% 最新値：各年度実測値－基準値＝R7 年度実測値－R1 年度値
事業の今後について	引き続き、大手登城路の復元整備を進めるとともに、整備の第二段階である「二ノ丸三階櫓」の復元に向けた調査事業にも令和7年度より着手。中心市街地における鳥取城跡のシンボリック価値を高め、賑わいの創出を図っていく。
②. 文化観光施設等運営事業（（公財）鳥取市文化財団、（公財）鳥取童謡・おもちゃ館）	
事業実施期間	昭和51年度～【実施中】
事業概要	中心市街地内にある文化交流施設等で、各施設展示品等を活かした体験事業の実施や、鳥取城跡整備と合わせた PR 等を行う。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：+21,564 人/年 最新値：-20,477 人/年 高砂屋では、年間 21 回の展示イベントを実施。わらべ館でも規模は大小様々であるが、年間延べ 200 回を超えるイベントを実施したことで、それぞれの施設に多くの来館者があった。 最新値は基準値（令和元年度値）に対し、令和7年度：-20,477 人となっている。これまでは基準値に対して、令和4年度：-60,878 人、令和5年度：-41,933 人、令和6年度：-33,128 人とコロナ禍の影響からの回復傾向が続いていたなかで、令和7年度値は、令和6年度値に対し+12,651 人と引き続き回復傾向となっており、本事業も寄与しているものと考ええる。 <計算方法> 対象施設：わらべ館・高砂屋（2 施設の利用者数の合計値）

	基準値：R1 年度値 目標値：R1 年度値×115% 事業目標値：R1 年度値×15% 最新値：各年度実測値－基準値＝R7 年度実測値－R1 年度値
事業の今後について	引き続き、各施設の展示品等を活かした体験事業を実施し、賑わいの創出や交流人口の増加を図る。

③. 民藝館通り周辺活性化事業（鳥取民藝観光まちづくり協議会）

事業実施期間	平成29年度～【実施中】
事業概要	国登録文化財である鳥取民藝美術館を活用し、地元の文化である「鳥取民藝」を発信していくとともに、旧吉田医院をはじめ空き店舗活用、通り環境を整備する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：+837 人/年 最新値：+642 人/年 鳥取民藝美術館では、通常の展示に加え、約6か月ごとにテーマを変えた民藝に係る展覧会を実施。令和7年度は「弓浜緋」と「日本のやきもの」をテーマとした展覧会を開催した。また、鳥取の文化や民藝などを学ぶ交流会も併せて開催しており、令和7年度は12回開催し、鳥取民藝の発信を行った。さらには、民藝館通りの空き店舗をリノベーションした民藝カフェが令和5年度末にオープン。山陰の民藝作家が作陶した器を用いて料理を提供しており、民藝の魅力を発信するとともに、通り周辺の更なる活性化に寄与している。 最新値は基準値（令和元年度値）に対し、令和7年度：+642 人となっている。これまでは、令和4年度：+280 人、令和5年度：+168 人、令和6年度：+423 人とコロナ禍の影響からの回復傾向が続いていたなかで、令和7年度値は令和6年度に対して+219 人と引き続き回復傾向となっている。 <計算方法> 対象施設：鳥取民藝美術館 基準値：R1 年度値 目標値：R1 年度値×115% 事業目標値：R1 年度値×15% 最新値：各年度実測値－基準値＝R7 年度実測値－R1 年度値
事業の今後について	引き続き、鳥取民藝美術館を核として「鳥取民藝」を発信していくとともに、民藝館通りの環境整備を進めていく。また、新たな施設による効果も合わせて、交流人口の増加を図る。

④. インバウンド促進事業（鳥取市）

事業実施期間	平成22年度～【実施中】
事業概要	海外プロモーションをはじめ、二次交通の充実や国際観光客サポートセンターの運営などを行う。
国の支援措置名及び支援期間	物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金（内閣府）（令和7年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：0人/年 最新値：0人/年 ※事業効果は①②③の事業に含む。 コロナ禍からの回復等を背景として、令和7年の鳥取県全体の外国人宿泊者数が過去最高の約19万8千人を記録する等、鳥取県・鳥取市を訪れる外国人観光客は近年急増している。急増する外国人観光客をサポートするとともに、中心市街地等に所在する観光地への案内をスムーズに行うため、本市では「鳥取市国際観光客サポートセンター」を中心市街地内である鳥取駅構内に開設している。令和7年度の利用者数は、アジア圏の外国人観光客を中心に20,706人と、前年度比約1.5倍の利用があった。また、令和7年度にわらべ館、鳥取民藝美術館を訪れた外国人観光客はそれぞれ1,654人（前年度+389人）、303人（同+90人）であり、本事業が目標指標の達成に寄与していると考えられる。
事業の今後について	今後も継続してサポートセンターの運営を行うことにより、外国人観光客のまちなか観光を促進し、賑わい創出を図る。

⑤. 大型イベント開催事業（鳥取しゃんしゃん祭・花と木のまつり・お城まつり）（各実行委員会、鳥取市商店街振興組合連合会）

事業実施期間	昭和40年度～【実施中】
事業概要	本市における最大規模のイベントである「鳥取しゃんしゃん祭」をはじめとした、本市中心市街地における賑わい創出及びまちの活性化に資する大型イベントを、年間を通じて定期的に開催する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和7年度～令和9年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	毎年3,000人を超える踊り子が一斉に踊る華麗な「鳥取しゃんしゃん祭」は、第50回記念大会（平成26年）に『最大の傘踊り』で世界記録を達成し、今や全国にも広く知られる祭りとなっている。令和7年度は108団体3,191名が踊り子として参加し、祭りが開催された3日間の観客数は35万2,500人となり、本市中心市街地に大きな賑わいをもたらした。当該イベントが開催された令和7年8月のわらべ館、高砂屋の入館者数はそれぞれ18,457人（前年度+4,235人）、1,058人（同+227人）と、施設利用者数の増に寄与した。 鳥取市花のまつり・木のまつりは、市民の主体的参加による花と

	緑のある豊かな街づくりをめざすことを目的として、例年昭和の日と文化の日に中心市街地で開催されている催しである。令和7年度は、花のまつりでは72店舗が出店し31,000人が来場、木のまつりでは71店舗が出店し28,000人が来場し多くの賑わいを見せた。花のまつりが開催された令和7年4月のわらべ館、高砂屋の入館者数はそれぞれ8,190人（前年度+2,285人）、866人（同+67人）、木のまつりが開催された令和7年11月のわらべ館、高砂屋の入館者数はそれぞれ11,342人（前年度+2,546人）、1,054人（同+243人）と、施設利用者数の増に寄与した。 毎年、本市中心市街地で行われる「鳥取三十二万石お城まつり」は、殿様や姫様、武士などに扮した時代行列や火縄銃鉄砲隊演武などが行われる時代祭りである。第26回となる令和7年度は、NHK大河ドラマに出演予定の俳優を招いたトークイベントを開催する等の試みもあり、2日間で14,500人が来場されるなど大いに賑わった。当該イベントが開催された令和7年9月のわらべ館、高砂屋の入館者数はそれぞれ9,792人（前年度-899人）、777人（同-30人）と、前年度との比較では入館者数の増に繋がらなかった。参考数値ではあるが、イベント実施後の令和7年11月に実施した通行量調査において、城跡周辺の計測地点では865人/日（前年度+105人）と増加しており、中心市街地における人流の増加に寄与したと考えられる。
事業の今後について	これらのイベントは、本市のシンボリックな催しであるとともに、中心市街地の賑わい創出に欠かすことのできない存在である。引き続き本事業を実施することにより、賑わい創出及び周辺施設の利用促進を図っていく。

⑥. 100円循環バス「くる梨」運行事業（鳥取市）

事業実施期間	平成14年度～【実施中】
事業概要	中心市街地の回遊性・滞在性を高めることを目的に循環バスを運行する。中心市街地でも高齢化が進展する中、生活交通としての役割も高まっており、利便性の向上・持続可能な運行体制を構築する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和7年度～令和9年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	中心市街地活性化、公共交通機関の利用促進、市中心部における公共交通空白地域の解消を目的として、市街地をワンコイン（100円）で移動することが出来る循環バスを運行している。令和7年度の運行実績は、赤コース87,233人（対前年度-1,840人）、青コース116,418人（同+4,820人）、緑コース136,767人（同+9,030人）であり、合計340,418人（同+12,010人）となった。コロナ禍で利用者数が落ち込んだ令和2年度以降は現在まで増

	加傾向にあり、生活交通としての役割が高まっている。特に令和7年度に利用者数が増加した緑ルートは、令和7年度に利用者数が増加した拠点（わらべ館、鳥取民藝美術館）を周遊しており、本事業が目標数値の伸長に寄与していることがわかる。
事業の今後について	近年の原油価格の高騰や運転手不足等、公共交通を取り巻く環境は厳しいが、利用率向上の取組を関係機関と共同で実施する等の施策を行いながら、中心市街地の回遊性・滞在性の向上を図るため引き続き事業を実施していく。

●目標達成の見通し及び今後の対策

文化観光・交流施設年間利用者数（4施設）について、主要事業が概ね順調に進捗しており、施設の利用者数も堅調に推移しているものの、最新値は目標値と大幅な乖離があり、現時点では目標達成が難しい状況のため、以下の事業を令和8年度より新たに実施予定。

・自然・歴史・文化をいかした鳥取城跡周辺エリアにぎわい形成プロジェクト：鳥取城跡周辺ににぎわい拠点となる複合型ビジターセンターを整備するとともに、拠点整備と併せて、周辺の自然・歴史・文化等の地域資源の高付加価値化を図りその魅力を発信することで、市民や観光客の交流・滞在を促進する。市民ボランティア団体（ガイド等）と連携し、ビジターセンターに常駐していただくことにより、城跡だけでなく、わらべ館や高砂屋等の城跡周辺エリアの施設への案内が可能となり、施設利用者数の増加に繋がるものとする。

<事業スケジュール（予定）>

令和8年度

ハード：ビジターセンター整備に伴う建築物及び公園再整備の基本・実施設計業務

ソフト：麒麟獅子頭の3Dデータ取得事業、城跡関連資料デジタルアーカイブ化事業

令和9年度

ハード：ビジターセンター整備に伴う公園整備工事及びビジターセンター建築工事の施工

ソフト：麒麟獅子頭の3Dデータ取得事業（公開含む）、麒麟獅子舞定期上演実施事業、城跡関連資料デジタルアーカイブ化事業

令和10年度

ハード：ビジターセンター整備に伴う公園整備工事及びビジターセンター建築工事の施工

ソフト：麒麟獅子頭の3Dデータ取得事業（公開含む）、麒麟獅子舞定期上演実施事業、城跡関連資料デジタルアーカイブ化事業、歴史的建造物を活用した観光拠点整備事業